

令和7年度学校評価表

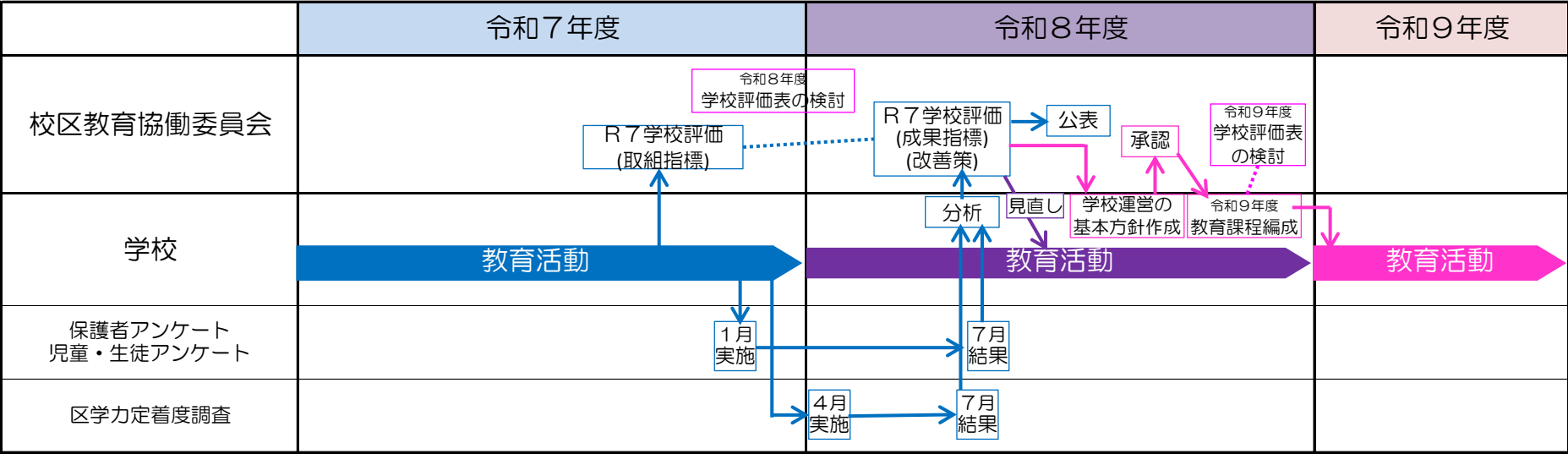
品川区立戸越小学校	校長	川田 重久
戸越小学校校区教育協働委員会	委員長	藤田 祐介

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 令和5年3月24日 教育長決定 要綱第5号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和7年度の学校評価が令和8年度および令和9年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



評価項目1 学力に関すること

重点目標		○6年間を通して規範意識の定着をもとにして学力の向上を図り、思考力・判断力・表現力を養う。 ・規範意識の向上と定着を土台に一貫教育を推進し、学習規律の徹底、家庭学習の習慣化を図る。 ・レベルアップタイムの学習や、放課後補習、家庭学習等の活発化を図る。 ・ICT機器を授業等で効果的に活用し、学習意欲とICT活用能力の向上を図る。 ・児童の実態に応じた指導(習熟度別学習・少人数指導・補習教室・指導助手の活用)を実施する。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	品川区学力定着度調査では、各学年の平均正答率を75%とする。	すべての学年のすべての教科で、東京都の平均正答率を上回ることができた。	A	○学力定着度調査を実施した全学年で、国語と算数において平均正答率75%という成果指標を達成することができた。成績下位の児童は、どの学年も読解力、思考力の定着に不安要素があるので、各教科・領域において、読解力、思考力の向上に努めていく。
	レベルアップタイムに「ことのはノート」「100マス計算」に取組み、週末には「100マス作文」を実施する。実施率90%を確認する。	レベルアップタイムには、どの学年でも「ことのはノート」「100マス作文」に取り組むことができた。	A	
②	各学級の80%以上の児童について、基本的な学習規律が身に付いている。	戸越スタンダードにより基本的な学習規律(黙って聞く、発言の仕方、チャイム着席、あいさつ、学習準備、ノートの取り方、発表の仕方、学習態度、学習姿勢)ができています。	A	○校内共通事項の学習スタンダードが良く守られているので、規範意識がしっかり定着している。そのため各学年で効率良く落ち着いた学習ができている。規律ある学習が実施できるので、工夫を取り入れることができ、学習面全体にプラスの効果が働いていると言える。今後も学習規律の定着を継続する。
	教師は発達段階に応じた指導を行い、スタンダードを定着させる。各学期末、児童にスタンダード振り返りアンケートを実施する。	児童への声掛けと個別対応による指導を継続してきた。振り返りのアンケートは、年度末に実施する。	B	
③	各教科の学習指導において、ロイロノーなどの学習アプリを有効的に利活用し、学習の教育効果を上げる。	タブレットを活用して授業スタイルを変更したことにより、個別指導の時間が増えた。また、ロイロノートを活用することで資料の活用や意見交流の工夫が進み、学習効果が上がった。	A	○R6年度までは「ICTを効果的に活用した学びを通して」を副主題として研究に取り組んできた。各学習において、教科の特性を踏まえた一人1台タブレットの利活用が実践できた。今後もより効果的な使用方法を開発し、実践していく。
	各教員にロイロノートの活用状況を確認させる。自己申告面談で学習効果があるか尋ねる。授業観察を通して確認する。	ロイロノートの活用状況調査はしていないが、学習時間内での有効活用は日常化している。授業観察はICTの活用ではなく、人材育成の視点で実施する。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標		○人権尊重教育を基盤に、自分を大切にするとともに、他者も大切にする児童の育成を図る。 ・あいさつ、規則・約束を守る、役割を果たすについて、発達段階に応じた指導を展開し、徹底を図る。 ・相手の立場に立つことの大切さに気付かせる指導を行い、正しい言葉遣いや人間関係作りができる。 ・人権問題について正しく理解させるとともに、あらゆる差別や偏見を許さない人権意識を高めていく。		
評価指標	最上段：成果指標	最上段：成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降：取組指標	2段目以降：取組指標の達成状況の説明		
①	児童の70%以上が、誰に対してもあいさつができる。あ・い・さ・つ「あるく、いつでも、さきに、つづける」	相手の目を見て明るくあいさつができる児童が多い。「あるく、いつでも、さきに、つづける」のすべての定着にはあと一歩。	B	○全体では多くの児童が気持ちの良いあいさつができるようになってきている。その一方で、保護者アンケートによる評価では、あいさつの声が減っているという指摘があった。「あいさつトロ」キャンペーンなど、今後もあいさつの指導を工夫し、継続して取り組んでいく。
	あいさつチャンピオンという取組により、相手の目を見て大きな声でいつでも、どこでも、誰とでもあいさつができるようにする。	イベントがあると、いつも以上にあいさつがしやすい雰囲気生まれるので良い。ただし、シールほしさのあいさつもあったので、取り組み方を変更していく。	B	
②	学校生活の基本的な共通確認事項であるスタンダード(学習、生活、給食、清掃、宿題)が身に付いている。(80%以上の児童)	各スタンダードで80%以上の児童が身についている。また、教師もスタンダードを日々意識し、児童に定着させていこうと意欲を持って取り組んでいる。	A	○児童の発達段階を踏まえ、学年ごとに多くの児童へスタンダードの定着を目指していく。本校には、学習、生活、給食、清掃、宿題の各スタンダードがあるが、児童の実態や社会の状況を考慮しながら更新や修正を加え、アップデートしていく。
	教師は学習規律の定着を意識し、発達段階に応じた指導を行う。スタンダードが守られているか児童にアンケートを実施する。	児童の自己評価アンケートは今後、年度末に実施するが、日々学習規律の定着を担当が確認し、個別の指導に生かしている。	B	
③	行事、各教科、学校生活全般において協力することや努力することの大切さを教え、児童は達成感と自己肯定感を育んでいる。	さまざまな行事ごとに学年や学級、そして個々で目標を立て、取り組む姿が見られた。また、行事ごとに多くの児童が達成感を感じることができている。	A	○失敗をしなやかに乗り越える力＝レジリエンス、他者への思いやり、元気な心と体、プラス思考などを意識して、児童の育成を図る。教育活動全般にわたって規範意識の定着を継続していく。
	個々の目標やクラス目標を設定するとともに、各教科、学校生活全般において児童の達成目標を設け、振り返りシートを実施する。	各行事をはじめ、体験学習や校外活動ではもう表設定とともに、事後の振り返りシートの記入を通し、教員は児童に達成感や自己肯定感を育む機会を設定している。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標		○自らの体に関心をもち、体力の向上・健康の保持増進に取り組むことができる児童を育成する。 ・体力テストの学年平均記録で、昨年度までの記録や全国平均記録を上回る。 ・健康の保持増進と運動の日常化に取り組む。 ・虫歯、耳鼻科等の治癒率向上、うがい・手洗い等の定着、早寝・早起き・朝ご飯の定着。放課後遊びの充実。 ・教師の体育科の授業力指導力の向上		
評価指標	最上段：成果指標	最上段：成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降：取組指標	2段目以降：取組指標の達成状況の説明		
①	2年生以上の学年は、体力調査の学年平均結果が、昨年度の学年平均結果を上回る。	体力調査の全108項目中、97項目で東京都平均値を上回る結果となった。さらにボール投げと握力の向上をめざしていく。	A	○運動の日常化をめざし、中休みは外遊びをすることを徹底する。ワンミニッツエクササイズについては学年だよりを通して保護者に周知し、家庭でできる取組として広げる。宿題の一部や長期休業中の課題にするなど、工夫しながら継続していく。
	休み時間に校庭で体を動かす児童が多いか。特に中休みは全校の児童が外で体を動かしているか。	特別な事情がある児童を除き、全員の児童が中休みに校庭へ出て体を動かす姿、運動の日常化が見られた。	A	
②	体育の授業で研究が生かされ「自己の体に関心をもち、共に学び合いながら楽しく運動する児童の育成」が実現している。	体育科での研究発表を「楽しい体育、運動の日常化、相互理解と認め合い教え合う。」ことをメインにして取り組んできたことが、今年度もよく生かされていた。	A	○運動面・体育面では、年度当初に教職員で学校評価の重点項目を確認する。また、体育部で校内体育実技研修を実施し、これまでの体育科の校内研究で取り組んできたことを、全教員に周知徹底する。楽しい体育と運動の日常化を図り、児童の体力向上を継続していく。
	体育で、音楽による準備運動、コーディネーション、感覚づくり、めあての設定、相互評価、運動量確保、場づくりができています。	校内研究で取り組んできたことを、多くの教師が身に付け、体育科の授業力が学校全体として高いレベルとなった。児童の運動技能や体力が大きく向上してきている。	B	
	テクニカルアドバイザーを有効活用している。体力向上月間、ワンミニッツエクササイズ、スポーツトライアルが日常化している。	テクニカルアドバイザーを効果的に活用し、技能指導を充実させることができた。しながわスポーツトライアルへの取組も活性化させることができ、毎学期、区内表彰の対象となる種目があった。	B	
③	虫歯、耳鼻科疾患の治癒率の向上・うがい、手洗いの定着・早寝、早起き、朝ご飯が定着している。児童の90%を目標とする。	健康教育全般について、家庭と連携した指導が行き届いている。今後も保護者の意識向上を図り、疾患治癒率の向上と、早寝・早起き・朝ごはんの定着を継続していく。	B	○学校だより、保健だよりなどを通し、今後も啓蒙を図り、治癒率の向上を継続していく。3年生以上の保健領域学習で、健康衛生面の指導定着と習慣化を図っていく。
	生活指導・保健指導での衛生指導の定着と習慣化を実現する。6月30日の時点で、治癒率を点検する。	コロナ感染症の経験から、各家庭での衛生意識の向上もあり、学級閉鎖はこの1年間で1学級だけだった。6月30日時点で疾患治癒率はほぼ100%だった。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

重点目標		○いじめを撲滅し、いじめゼロをめざす。いじめが認知されたら、必ずやめさせ、早期解決を図る。 ・いじめはどの学校でも起こり、その芽はいたるところに存在していることを前提に取り組む。 ・いじめはあってはならない、絶対に許してはいけないという意識で取り組む。 ・いじめ対応は、1未然防止 2早期発見 3早期解決		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	いじめは重大な人権侵害であることを児童が理解し、何があってもあってはならないことを十分自覚して日々過ごしている。	全児童がいじめは何があってもいけないことを理解している。今後も、からかい、悪ふざけ、不適切な言動について、指導を継続していく。	A	○いじめが許されないことは発達段階に応じてどの児童も理解している。校内では相手の人格を否定するような発言をする児童はいないが、からかいや不適切な言動がないとは言えない。円滑な集団生活のためにがまんやゆずり合いが大切であることを指導する。
	デイケン、いじめDアンケート、NiCoLi、学校風土調査の4調査に、すべての学級でいねいに取り組む。	区の施策に従い、デイケン、いじめDアンケート、NiCoLi、学校風土調査にいていねいに取り組んだ。学校風土調査はたいへん良い結果だったので、これを継続していく。	A	
②	市民科において道徳の教科書を使用し、「いじめゼロ学習」を効果的に実施する。	市民科や各種行事、日々の教育活動全般において、人権や心の教育を実施した。道徳の教科書を活用した授業を実践した。	B	○いじめはいつでもどこにでも発生する可能性があるという意識で児童理解を徹底していく。今後もいじめは未然防止を充実させ、いじめがあったときには、早期発見、早期対応、徹底解決を図っていく。R6年度の案件のひとつをいじめ重大事態として報告した。今後も継続的な配慮をしていく。
	日々児童理解に努め、いつ、いかなる場所においても、からかいや人権を軽視するような言動があった時には、迅速に指導する。	いじめの未然防止、早期発見、早期対応を徹底してきたが、いじめを原因とする転校があり、「いじめ重大事態」の届出をし、報告と対応をした。	A	
③	区はいじめ予防プログラムへの取組を全学級で100%にする。学校公開で必ず1度はトリプルチェンジを扱い、保護者に啓蒙する。	子どもの発達科学研究所によるいじめ予防プログラムであるトリプルチェンジに全学級で取り組んだ。どのクラスも学校公開でこのトリプルチェンジを扱った。	A	○子どもの発達科学研究所の監修のもと、区で共通のいじめ予防プログラム「トリプルチェンジ」の実践を徹底する。年に3回ある学校公開のうち、1度はこの「トリプルチェンジ」を扱うこととする。すべての児童が「シンキングエラー」「アンバランスパワー」「や・は・た行動」の意味が分かるように指導を継続する。
	児童が「シンキングエラー」「アンバランスパワー」「や・は・た行動」の意味が分かり、いじめ撲滅を意識して学校生活を送っている。	児童の発達段階に応じて「シンキングエラー」「アンバランスパワー」「や・は・た行動」の意味を理解させ、いじめ撲滅を意識させてきた。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目5 特色ある教育活動に関すること

重点目標		○コミュニティ・スクールを効果的に活用し、体験活動や校外学習を実践していく。 ・豊富なゲストティーチャーを招聘する。 例：オリンピック選手・剣道教室・茶道体験・落語教室・交通安全教室・ジャズコンサート・野球やクルト選手など ・地域ボランティアや学習ボランティアを導入する。 例：地域未来塾の補習授業、図書、学習支援、クラブ活動、環境整備など		
評価指標	最上段：成果指標	最上段：成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降：取組指標	2段目以降：取組指標の達成状況の説明		
①	体験学習の60%以上でコーディネータが関わり、連絡調整をして実施している。戸越小学校ならではの人材・環境を生かしている。	学校運営の柱のひとつである体験学習を実施する際に、学校地域コーディネータが連絡調整をすることで、効果的・有効的に学習を実施していく。	A	○各学年の体験活動や校外学習の実施に関しては、学校地域コーディネータが連絡調整や事後の学習に関わることとする。これまで、人材や環境を効果的に活用することができた。今後も各学年ごとにコーディネータが関わるものを確認して実施していく。
	各学年の体験活動や校外学習をリストアップし、CSコーディネータの関わりを点検する。	6学年分の体験学習・校外活動を更新してリストアップした。CSコーディネータが調整役となって、予定していた活動を実施することができた。	A	
②	地域未来塾による補習教室を2、3、4、5年生児童に実施し、算数の学力向上を図る。	学校地域コーディネータが連絡調整をすることで地域未来塾を運営し、算数で児童の学力向上の成果をあげる。	A	○地域未来塾では、丸付けボランティアの募集と各指導日の運営をスムーズに行うことができた。ボランティアが足りないことがあったので、計画的に運用していく。
	算数補習教室を、2年生月曜、3・4年生土曜、5年生水曜に実施する。プリント問題に取り組ませ、補習後には70%正答している。	2・3・4・5年生を対象に、どの学年も12回の算数補習教室を実施することができた。全てのプリントで間違い直しをすることで全問正答で終わることができた。	A	
③				

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目6 保護者・地域との連携に関すること

重点目標		○保護者が安心し、信頼してお子さんを任せられる学校をめざす。 ・学校は児童・保護者にとって安心でき、任せられる、信頼される学校であり続ける。 ・すべての教職員が安全への意識を高め、細心の気配りをする。児童の様子を保護者に必要に応じて的確に連絡する。 ○地域から信頼され支援される学校をめざす ・学校情報を積極的に発信し本校の課題解決に対する理解を得る。 ・地域の人材を指導者として児童の指導に活用し、地域に開かれた学校を創造する。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	保護者が安心し、信頼してお子さんを任せられる学校をめざす。	安全面と信頼面で保護者が安心して子どもを任せられる学校を目指す。学校公開の機会を利用し、地域や保護者の皆様にアンケートを実施する。	A	○今後も学校だよりでの情報発信を継続することで、地域の方々や保護者の皆様に、①校長の経営方針 ②重点項目 ③教育活動の方向性などを伝えていく。ホームページによる配信も実施・継続する。
	学校だより・学年だよりやHPによる発信を通し、保護者に学校の様子を知らせる。年度末アンケートで保護者信頼度を尋ねる。	学年だよりはすべての学年で毎週1回発行することができた。週末には校長がメール配信で学校の近況を伝えた。アンケート結果でも高い信頼度を得ることができた。	A	
②	地域から信頼され、支援される学校をめざす。	誰もが入学させたい学校、人として当たり前で当たり前にできる学校をめざし、地域や保護者から信頼を得られるようにする。	A	○これまで同様に、保護者や地域の声に真摯に耳を傾け、可能な事はすばやく改善、改革していく。学校公開後には、保護者アンケートの結果を集計し、学校だより臨時号を発行する。保護者や地域の方々から批判や指摘があれば、ていねいに誠実に対応し、本校の教育活動にご支援・ご協力をしてもらえるよう、全力を尽くす。
	学校だより・学年だよりを定期的に発行し、学校の様子を知らせる。学校公開でのアンケートで地域の皆様の信頼度を尋ねる。	ホームページの「学年日記ページ」を毎週更新することができた。学校だよりを地域町会に回覧した。学校公開でのアンケートでは保護者の皆様から確かな信頼を得ることができた。	A	
③				

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成